

## I 調査地域の概況

### 1. 調査対象地域と調査日程

今回の植生調査対象地域は富津市富津の埋め立て地を中心に 30km 圏の範囲と、7 km 圏を対象に行なわれた。1978年12月の予備調査および1979年5月～11月を調査期間として、さらに1972年より続けられている房総半島の未発表の植生調査資料を加え比較検討が行なわれた。

植生調査対象地域は Fig. 1 に示されている。

1978～1979年の調査期間・日程は予備調査を含め以下に示される。

1978年12月12, 13日 富津市周辺予備調査(鈴木邦雄, 箕輪隆一, 村上雄秀, 片桐正行)

1679年4月24日 逗子市(箕輪隆一, 村上雄秀, 黒沢達行)

5月1～4日 富津周辺7 km 圏および三石山(奥田重俊, 藤原一絵, 望月陸夫, 箕輪隆一, 村上雄秀, 小日向孝, 黒沢達行)

5月3日, 29～30日 横浜市, 横須賀市, 三浦三崎(箕輪隆一, 村上雄秀, 黒沢達行)

6月18～21日 富津周辺7 km 圏および鋸南町, 御殿山(宮脇昭, 藤原一絵, 箕輪隆一, 村上雄秀, 仲田栄二, 黒沢達行)

7月6日 横浜市(箕輪隆一, 弦牧久仁子, 鈴木伸一)

7月9～14日 元清澄山周辺, 鴨川市周辺(藤原一絵, 仲田栄二, 黒沢達行, 天野修治)

7月23～26日 横浜市, 横須賀市(箕輪隆一, 木村雅史, 弦牧久仁子, 鈴木伸一)

9月18日 富津埋立地土壌調査(箕輪隆一, 鈴木伸一)

11月5～9日 君津市, 長南町, 一宮町など房総半島中央部より東部にかけての地域(藤原一絵, 仲田栄二, 黒沢達行)

11月20～21日 鎌倉市, 葉山町(箕輪隆一, 鈴木伸一, 黒沢達行)

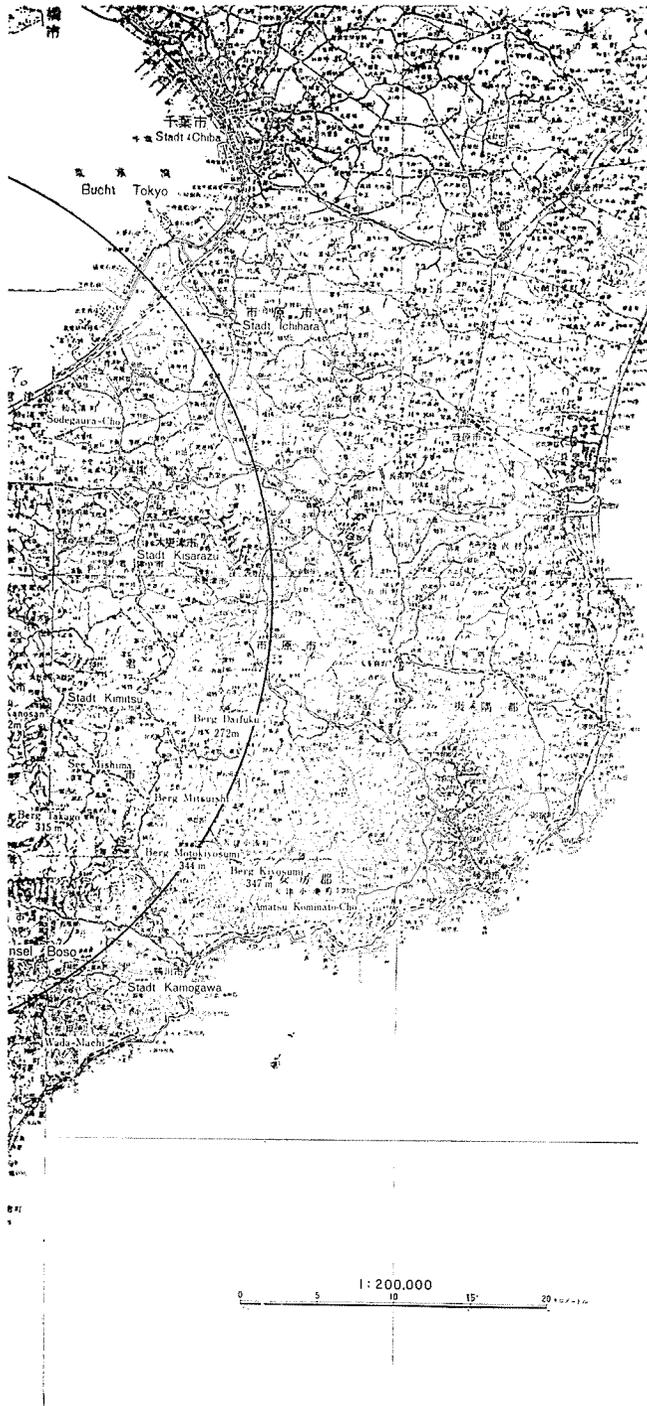
### 2. 自然環境

富津地区を中心とする 30km 圏は、房総半島、三浦半島、川崎・横浜地区を含め、東京湾をはさんだ陸地と、半島という特殊性により気候・地形・地質など地域により特徴が異なる。植生は、変化の大きい自然環境に対応して様々な形態を示している。さらに人為的影響が加わり、各種の人為的影響によるおきかえ群落——代償植生——が自然植生と対応してみられる。

#### 1) 気 候

広域的な気候条件に、さらに房総半島の半島性、沿岸性の地域差が加わって植物の分布、植生の発達が規定されている。気候の中でもとくに気温と降水量が植物や植生に対し大きな影響を与えている。





地理的概況  
Untersuchungsgebietes

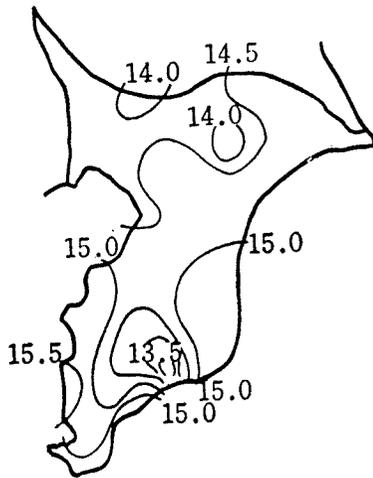


Fig. 2 房総半島の月平均気温の地理的分布図 (千葉県生物学会 1975)  
Verteilung der mittleren monatlichen Temperaturen ( $^{\circ}\text{C}$ ) auf der Halbinsel Boso

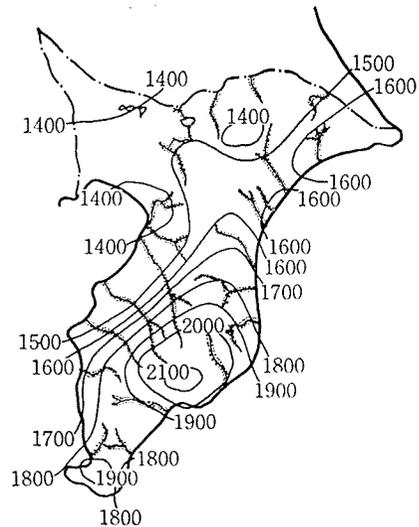


Fig. 3 累年平均年降水量の地理的分布図 (千葉県生物学会 1957)  
Mittlere Jahresniederschläge auf der Halbinsel Boso

#### a. 気 温

Fig. 4 に関東地方における平均気温 ( $^{\circ}\text{C}$ ) の分布が示されている。

房総半島、三浦半島では、年間を通しての平均気温は大きな変化はみられない。およそ  $15^{\circ}\text{C}$  以上の等温線で半島の調査対象域が含まれる。

清澄山周辺域においてはとくに平均気温  $15^{\circ}\text{C}$  以下で、川崎・横浜地区に近いが、あるいはそれ以下を示している。植物にとくに影響を強く与えている冬季の気温——2月の平均気温——では、三浦半島および房総半島の鋸南町以南で平均  $5^{\circ}\text{C}$  以上の等温線が示されている。

一方、房総半島のみを月平均気温の分布を「千葉県植物誌」より抜粋すると、さらに詳細な気温分布が示される (Fig. 2)。

今回の植生調査範囲ではとくに伊豆半島以西より東海地方を中心に分布するホソバカナワラビ—スダジイ群集が房総半島に分布していることが再確認されたが、気温の分布および降水量の分布と、一部一致することがみとめられる (p. 33)。

房総半島、三浦半島、横浜市および川崎市・藤沢市の一部などの本報の調査域は、吉良 1949 による温量指数が  $110\sim 125^{\circ}$ 、寒さの指数が  $0^{\circ}\text{C}$  で常緑広葉樹林域に含まれる。

#### b. 降 水

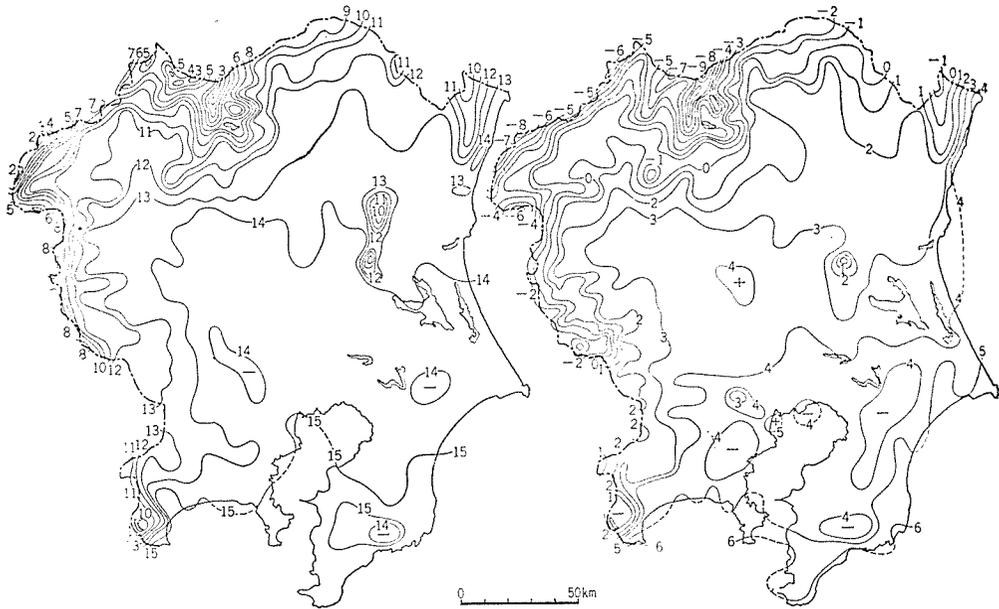
わが国各地の年間降水量の分布は  $1,000\sim 4,000\text{mm}$  で示され、平均的年間降水量は  $1,600\text{mm}$

a) 全年

b) 2 月

Isothermen der mittleren Jahrestemperaturen

Isothermen der Minimum-Temperaturen(Februar)



c) 8 月 Isothermen der Maximum-Temperaturen (August)

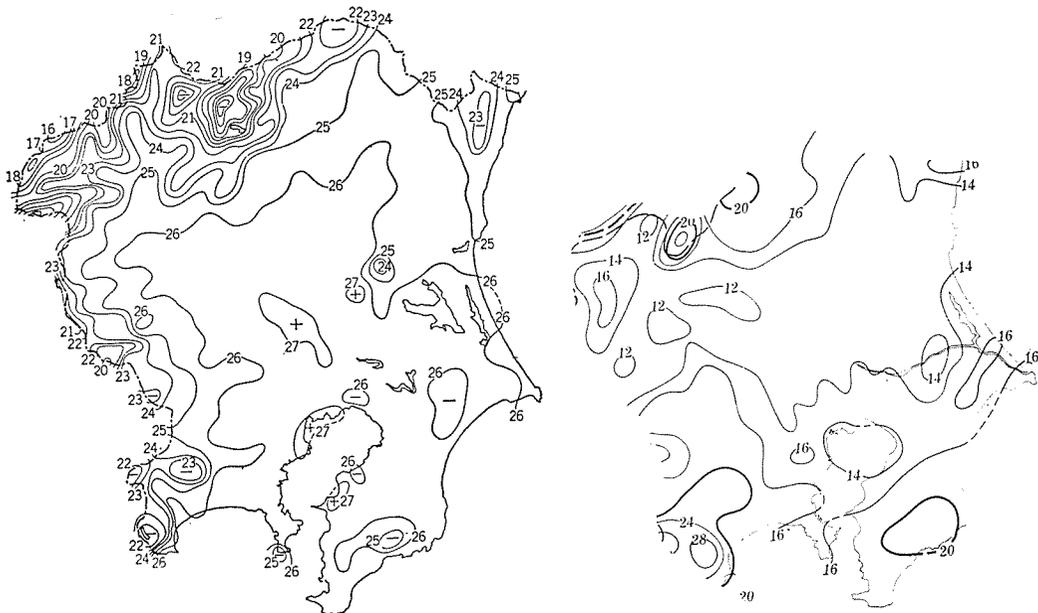


Fig. 4 関東地方における平均気温 (°C) の分布

(「気象庁観測技術資料第10号 1958」により  
吉野正敏作成)

Allgemeine Temperatur-Verhältnisse im  
Kanto-Distrikt (nach Yoshino)

Fig. 5 関東地方における年降水量 (mm) の分布 (森林立地懇話会1963)

Verteilung der jährigen Niederschlagsmengen  
(mm)



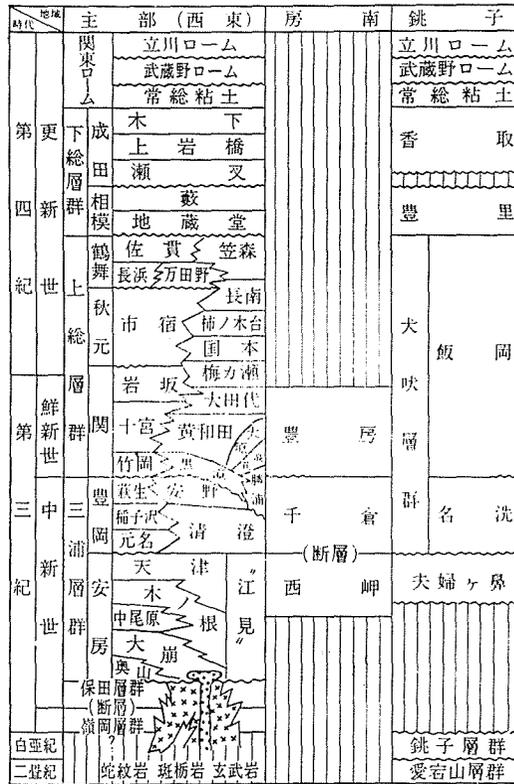


Fig. 7 千葉県地質層序 (大原 1968)  
Stratigraphische Darstellung der Präfektur Chiba (nach Ohara 1968)

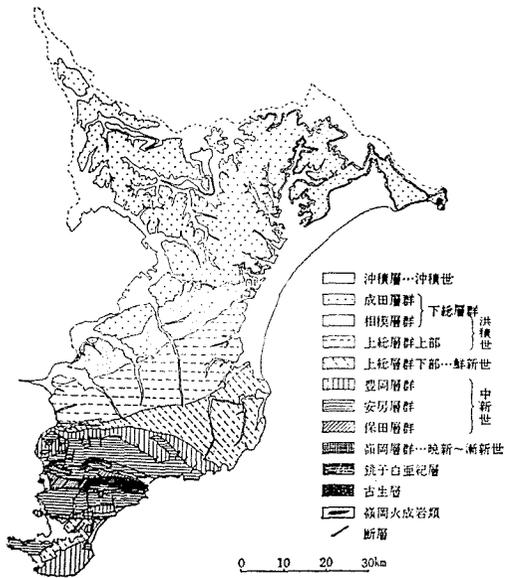


Fig. 8 千葉県地質図 (千葉県生物学会 1976)  
Geologische Karte der Präfektur Chiba  
(Präf. Chiba 1976)

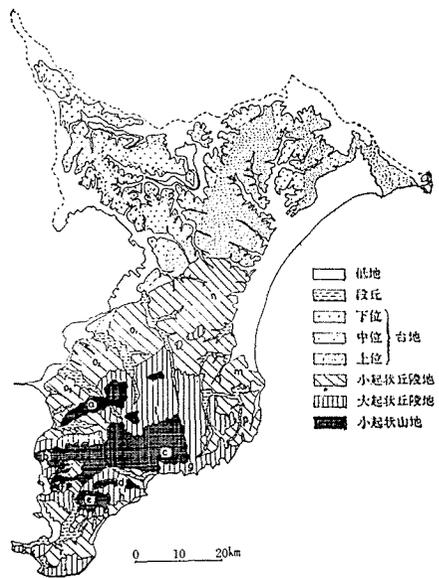


Fig. 9 千葉県地形区分図 (千葉県生物学会 1976)  
Geomorphologische Gliederung der Präfektur  
Chiba (Präf. Chiba 1976)

とされている（理科年表：東京天文台編纂 1980）。

房総半島、三浦半島では、年間 2,000mm を超える地域が、清澄、勝浦を中心に集中している。また年間降水量 1,600mm 以上を示す等量線は、およそ関東ロームの分布が切れる地点、すなわち地形的には台地と丘陵地の境界域とほぼ一致した線を示している（Fig. 3, 9）。

## 2) 地 形・地 質

今回の植生調査対象域は、およそ 3 地形区分にまとめられる。

川崎・横浜・藤沢、さらに房総半島の富津より銚子を結ぶ線の西側に関東ロームをかぶった台地（下末吉台地、武蔵丘陵台地および上総台地）が分布している。三浦半島および房総半島の東側には三浦・房総丘陵が位置している（Fig. 6）。

東京湾岸および三浦・房総半島沿岸部には沖積地が広く分布している。

地質的には三浦半島と房総半島は類似しており、両半島とも南部は隆起により海上に突出した第三紀中新世の地質が基盤となっている。半島中央部に洪積世、鮮新世の地層群と、一部時代未詳の嶺岡層群が房総半島に分布し複雑な地質配分をみせている（Fig. 7, 8）。